

各 位

第77回 教育実際指導研究会

学びをひらく

— 教師も子どもも変わるシティズンシップ教育 —

- 主 催 お茶の水女子大学附属小学校
NPO法人お茶の水児童教育研究会
- 後 援 お茶の水女子大学学校教育研究部
- 期 日 2015年 2月19日(木)・20日(金)
- 会 場 お茶の水女子大学附属小学校
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1
TEL 03-5978-5875
FAX 03-5978-5283
ホームページアドレス <http://www.fs.ocha.ac.jp/>

■公開授業

国語	社会	算数	理科	音楽	図画工作
家庭	体育	なかま	創造活動	食育	学校保健

ご挨拶

私どもの教育実際指導研究会は、おかげさまで第77回を迎えます。

昨年度までの3年間は、「交響して学ぶ子を育てる—異質性が行き交うシティズンシップ教育—」のテーマのもと、呼応空間をつくり出すための学習方法・形態を探究してまいりました。

今年度は、昨年度までの研究を引き継ぎ、新たに「学びをひらく—教師も子どもも変わるシティズンシップ教育—」というテーマを設定し、研究を進めております。

多くの先生方に、これまでの研究成果をご覧いただき、ご意見、ご助言を賜りたく存じます。

ぜひ、ご参会いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

お茶の水女子大学附属小学校長
NPO法人お茶の水児童教育研究会代表

佐々木 泰子

◎第1日目 2月19日(木)

8:15 9:00 9:40 10:00 10:40 10:55 11:45 12:50 13:00 14:30 14:50 16:00

受付	学習指導Ⅰ	学習指導Ⅱ	学習指導Ⅱの話し合い	全体発表	課題別部会	講演
----	-------	-------	------------	------	-------	----

○公開学習指導

学習指導Ⅰ 9:00~9:40				学習指導Ⅱ 10:00~10:40			
年	教科	題材・単元名	授業者	年	教科	題材・単元名	授業者
1	なかま	じぶんでえらぶ	岡田 博元	1	算数 音楽 なかま	20よりおおきいかず からだできこう いっしょにあそぼう ためしてみよう	岡田 絢子 猶原 和子 増田 伸江
2	算数 なかま	いろいろな形 えらんだことをもとにして	戸次 佳子 久下谷 明	2	国語 学校保健 なかま	「スーホの白い馬」 からだを知ろう 竹 - Take World -	阿部 藤子 高木 悦子 町田 直樹
3	算数 図画工作 創造活動	1より小さい数 ストローランド かぞくのためのひとしごと	戸張 純男 堀井 武彦 岡部 雅子	3	国語 食育	これってなに 給食から求食へ	本田 祐吾 足立 愛美
4	☆国語	ぴったりのことばをえらぼう	小野澤由美子	4	算数 体育 創造活動	小数のかけ算とわり算 動きへのこだわり みんなで「表現」を創ろう	榎本 明彦 神谷 潤 片山 守道
5	理科 体育 創造活動	ふりこで考える 体づくり運動 みつめよう自学のテーマ	三井 寿哉 石塚 諭 河合紗由利	5	国語	「わらぐつの中の神様」	廣瀬 修也
6	国語	卒業を前に一。	芥川 元喜	6	社会 算数 理科 図画工作	私たちのくらしと政治 展開図から考えよう 水溶液の性質 自由の実験	岩坂 尚史 富田 京子 田中 千尋 小沼 律子

☆は、帰国児童教育学級です。

※学習指導Ⅱは、授業後に話し合いをもちます。(10:55~11:45)

○課題別協議会 13:00~14:30

部会名	協議会の概要	共同研究者(敬称略)	コメンテーター(敬称略)
教師の シティズンシップ	子どもと同様に、教師も市民として同僚に学び育ち、変わる存在でありたい。今年度は授業を見ての教師の気づきやみとりについて、その共通点や相違点を尊重しながら考察した。変わりたいものが悩む教師として何ができるのか、一緒に考えたい。	本学 富士原 紀絵	東京大学 小玉 重夫
コミュニケー ションを 深める表現	私たちは、他者の声を受けとめ、聴きあう身体性を育むことが大切だと考えている。子どもたちの具体的な姿を通し、ともに響きあい、自らを問い直して、豊かな表現をうみだしていくような学習環境や方法について、参会者の方々と話しあいたい。	本学 菅原 ますみ	埼玉大学 庄司 康生
再考; 創造活動	本校は自ら考え行動する子どもの育成を目指し、1921年からプロジェクトメソッドを取り入れた実践を行い、1976年に「創造活動」が発足した。今年度は創造活動の5つの要素から育まれる資質・能力を分析し、教師の役割とともに考えたい。	本学 伊藤 亜矢子	國學院大學 成田 信子
低学年教育を 考える	生涯を通じて主体的な学び手を育てるため、低学年教育課程の改訂に取り組んでいる。幼小接続期だけでなく2年生までを視野に、生活の中にある学びを、自覚的な学びへつなげる子どもたちの姿から、学びをどのように支えていくか考えたい。	本学 浜口 順子	白梅学園大学 無藤 隆
I C T	昨年度の研究成果で得られた、ICTの教育的効果をさらに引き出し、本年度は「思考の解像度を上げる」ことを目的とし、ICT機器の適切な運用を通して子どもの学びをひらく姿を検討したい。	本学 坂元 章	日本女子大学 吉崎 静夫
学校保健	「子どもの健康な生活のために今できること」として、子どもたちが自分の体や心をつつめ、生活について学ぶ機会を早い時期から作る必要性を感じている。そこで、今年度は特に低学年への働きかけを中心に、実践を通して考えたい。	本学附属幼稚園 渡邊 満美	日本子ども家庭総合研究所 衛藤 隆
SHOKUIKU (食育)	文科省スーパー食育スクールに指定され、「食に対して能動的な児童を育てる」をテーマに研究を進めてきた。自分の体を大切に感じ、体を養うこと、食に興味と関心を持ち、自分の食べるものを考え、選び、作る子どもを育てることを目指している。	本学 赤松 利恵	グッドテーブルズ 山本 謙治

◎第2日目 2月20日(金)

8:15 9:00 9:40 10:00 10:40 10:55 11:45 12:50 13:00 14:30 14:50 16:00

受付	学習指導Ⅰ	学習指導Ⅱ	学習指導Ⅱの話し合い	全体発表	教科別部会	講演
----	-------	-------	------------	------	-------	----

○公開学習指導

学習指導Ⅰ 9:00~9:40				学習指導Ⅱ 10:00~10:40			
年	教科	題材・单元名	授業者	年	教科	題材・单元名	授業者
1	算数	かたちあそび	岡田 紘子	1	国語	こんなとき どうする	岡田 博元
	なかま	えらんで学ぶ	増田 伸江		図画工作	かいて ならべて つみあげて	堀井 武彦
2	国語	書いて話す 話して書く	阿部 藤子	2	算数	決め方を考えよう	久下谷 明
	図画工作	感覚の解放	小沼 律子		音楽	からだで音を楽しもう	町田 直樹
	体育	工夫した動きで	栗原 知子				
3	国語	自分の言葉で表そう・聴こう	本田 祐吾	3	算数	三角形	戸張 純男
	理科	豆電球っておもしろい	田中 千尋				
4	算数	直方体と立方体	津野 恵	4	国語	「一つの花」の読みをつくる	片山 守道
	体育	わたしとボール運動	神谷 潤		★国語	問いをつくりながら読み取る	小野澤由美子
5	国語	ディスカッション	廣瀬 修也	5	社会	自然災害と市民の安全	岡田 泰孝
	音楽	こだわりを音にいかそう	猶原 和子		算数	割合を使って	河合紗由利
					理科	電磁石をデザインする	三井 寿哉
体育	ボール運動「ネット型」	石塚 諭					
6	社会	私たちの暮らしと政治	岩坂 尚史	6	国語	「やまなし」	芥川 元喜
	算数	立体について考える	富田 京子		家庭	マイ・ホームプロジェクト	岡部 雅子

※ 学習指導Ⅰの2年「体育」(栗原)と、学習指導Ⅱの全ての授業は、授業後に話し合いをもちます。(10:55~11:45)

☆は、帰国児童教育学級です。

○教科別協議会 13:00~14:30

教科名	テーマ	共同研究者(敬称略)	コメンテーター(敬称略)
国語	ともにつくることばの学習 - 関係性をつむぐ-	本学 富士原 紀絵	東京大学 藤江 康彦
社会	社会問題について考え、政治的リテラシーを涵養する	本学 池田 全之	東京学芸大学 梶井 貢
算数	関係づける力を育てる	本学 真島 秀行	東京学芸大学 藤井 斉亮
理科	学級の科学を創造する	本学 垣内 康孝	昭和女子大学 小川 哲男
音楽	音楽する身体をつくる	本学 永原 恵三	桐蔭横浜大学 谷本 直美
図画工作	造形的な学びの心づもり	本学 刑部 育子	元東京大学 佐伯 胖
家庭	生活を見つめるまなざしが新たな学びをひらく	本学 小玉 亮子	横浜国立大学 堀内 かおる
体育	自己・他者・モノのつながりから学びをみとる	本学 猪崎 弥生	東京学芸大学 鈴木 直樹

●講演

2月19日（木） 14時50分 ～ 16時00分 大学講堂

「伝承としての学び」

姜 尚中 先生（聖学院大学学長）

（近著） 「あなたは誰？私はここにいる」 集英社 2011年
「心」 集英社 2013年
「心の力」 集英社 2014年

2月20日（金） 14時50分 ～ 16時00分 大学講堂

「教育を考える」

安藤 忠雄 先生（建築家）

（近著） 「安藤忠雄 建築を語る」 東京大学出版会 1999年
「私の履歴書 仕事をつくる」 日本経済新聞社 2012年
「TADA0 ANDO Insight Guide 安藤忠雄とその記憶」 講談社ビージー 2013年

●参加費と申込方法

○参加費 4,000円 学生 2,000円（資料代を含む）

○申込方法 本校ホームページから、受付専用ページで事前申込を行ってください。（2月16日〆切）
ただし、申込者が予定数に達した場合、早めに締め切ることがございます。
なお、当日受付はできません。予めご了承ください。

*詳しくは、本校ホームページ (<http://www.fs.ocha.ac.jp/>) でご確認ください。

●お願い

○受付番号が入った申し込み用紙をプリントアウトしてお持ちください。受付の際に必要です。

○校舎内でのビデオ・写真撮影、録音はご遠慮願います。

○靴カバーは用意しておりますが、環境への配慮から、上履きをご持参ください。

○弁当販売は、事前FAXで申し込みをされた方のみ行います。本校ホームページから申込用紙を印刷し、FAXでお申し込みください。

その他、大学内に食堂・売店、周辺には食堂・コンビニエンスストア等もございます。

○身分証明書の提示をお願いすることがあります。確認できるものをお持ちください。

○大地震等緊急の場合、研究会を中止することがございます。その場合のお知らせは本校ホームページで行いますので、そちらで、ご確認ください。

●会場案内

交通・地下鉄丸の内線【茗荷谷駅】より徒歩7分

・地下鉄有楽町線【護国寺駅】より徒歩10分

・JR山手線【大塚駅】（南口）より

・都バス都02系統【大塚2丁目】下車徒歩1分

※ 駐車場はありませんので、
車での来校はご遠慮ください。

●ご案内

本校では研修の受け入れをいたしております。

ご希望の方は、本校に直接ご連絡ください。

